学生会員の声

●他者へ伝える難しさと成長●

私は研究室に配属されるまで，人前で何かを発表するといった経験はほとんど無かった。そのため，普段の何気ない会話とどう異なるのか知らずにいた。いざ学部4年生になると，現在の研究室に所属し，自身の研究テーマを持つようになった。はじめは，研究の意義や実験結果に対する考察を他人に伝えることがとても難しかった。とくに，自身の考えを適切な言葉で表現する点で苦労した。また，私は緊張しやすい性分であることもあり，研究室内での進捗報告の場では散々な出来の発表となってしまった。教授や先輩，同期からのアドバイスで徐々に改善することができた。助言の中でとくに印象に残っていることは，「質疑応答では結論ファーストで話す」ことが普段の会話との大きな違いであることに気づかされたことだった。その後は，先輩の丁寧な指導もあり，無事，学部4年生での集大成である卒業論文発表会を終えることができた。大学院進学後は，国内学会でのポスター発表に参加する機会を多くいただき，初めにすべてが伝わらなくとも，質疑応答での対話を通じて自身の研究への理解を深めてもらうことができるようになった。卒論発表ではプレゼンテーションによる口頭発表であったが，学会ではポスター発表をする機会が多く，発表の形式によって，工夫すべきところも異なることを知った。それは，ポスター発表において，1枚のポスターにストーリー性は持たせつつも，パッと見た時にそれぞれの項目で伝えたい内容を分かりやすくするように意識することである。これまでに参加した学会発表の中で，直近に参加した経験を2つ紹介する。1つ目は初めて現地で発表した国際学会で，2つ目は今回参加した化学工学会だ。

大会の話の前に，私の研究テーマを述べておく。現在の研究テーマでは，低分子の凝集によるDNA分解酵素の阻害と，その薬剤利用への応用を検討している。

2024年6月にスペインで開催されたElsevierのInternational Colloids Conferenceで初めて英語でのポスター発表に臨んだ。英語を流暢に話す外国人に比べ，自身の英語の拙さにショックを受けた。しかし，私が詰まりながらも発表している間，頷き相槌を打ってくれる様子を見て，研究の意義が伝えられたのではないかと感じた。発表後には，次のステップへの議論にも発展し，これまでの学会発表での経験を活かすことができた。とくに，相手の理解が不足している様子の時には，自身の言葉で噛み砕いて説明できるようになっていた。私はこの国際学会での発表を通じて，研究室配属以前と比べ，自身の成長を感じるとともに，まだまだ伸びしろがあるとも感じる機会となった。

今回参加した2024年9月の第55回化学工学会秋季大会は，自身の研究において8回目の学会発表であった。本大会での一番の印象は，それぞれ異なるバックグラウンドを持つ人々に私の研究内容を理解してもらうには，それ相応の努力が必要であると改めて実感したことである。これまで様々な学会に参加してきたが，やはり各々の属性が多様な今大会に参加することで，多方面からの意見を頂戴することができた。とくに，薬剤利用に関する専門の方とお話した際には，応用方法についての議論を重ね，まだまだ検討の余地があることを知れた。今までの研究室内で行ってきた議論は各々が似た分野に携わっているため，理解されやすい反面，議論の幅が広がりづらかった部分も見つかった。そのため，今大会に参加し，多角的な視点で意見をもらえたことは，非常に有意義な時間を過ごすことに繋がった。80分の発表時間では議論し切れなかったこともあったが，今大会に参加し議論を通じて，まだまだ薬剤利用への応用方法が模索できることに気づき，さらに研究を発展させたいと思った。

私はこれから修士を修了するまでの半年間に，さらに研究を進め，相手に伝わる発表を行い，研究者としてさらなる成長を遂げたい。そして，今後は，研究と発表を通じて得られた経験を糧に，企業に就職後も成長し続け活躍したい。

（神戸大学大学院 工学研究科 応用化学専攻　波部俊亮）

著作権法により無断での転載等は禁止されています